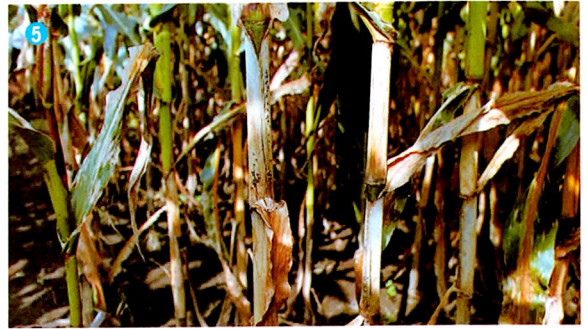


# 牧草と園藝





# F<sub>1</sub> トウモロコシの病害



写真説明 ①ごま葉枯病 ③黒穂病 ⑤紋枯病 ⑦褐斑病  
②すす紋病 ④黄化萎縮病(クレージートップ) ⑥すじ萎縮病

## トウモロコシの主要病害の病徴と対策

病名	病原	発生地および病徴	対策
ごま葉枯病	<i>Bipolaris maydis</i> (Nisik.) Shoem.	府県で多発する葉病害、葉に小さな楕円形の斑点をつくる、病斑のまわりは茶色で健全部との境界が明確。梅雨と秋の雨季に多発	耐病性品種の利用
すす紋病	<i>Exserohilum turcicum</i> (Pass.) Leonard et	東北や高冷地で発生しやすい、葉に鉛色の大きなレンズ形の病斑、湿度が高いとその表面にすす状のかび(胞子)が生えてくる、多雨あるいは低温時に発生	耐病性品種の利用、輪作
紋枯病	<i>Rhizoctonia solani</i> Kühn	西南暖地で発生、葉鞘に小判形の紋状を作り、くもの果状のかびが生えて菌核形成、密植、多肥、多湿条件下で多発	適正な栽植密度の遵守、除草
黒穂病	<i>Ustilago maydis</i> (DC.) Cda.	全国的に多発、絹糸抽出期頃より発生し茎葉あるいは雌穂に銀白色に包まれたコブが特徴、その後コブの中から黒い粉(胞子)が飛散→翌年の発生源	輪作、病部の焼去、耐病性品種の利用
すじ萎縮病	Rice black-streaked Dwarf virus	関東以南の暖地でヒメトビウカによって媒介されるウイルス病、草丈伸長が阻害され、葉の裏や葉鞘の表面に白色または黒色のイボ状にもりあがった細い条線が特徴、甚しい場合は雌穂が形成されず減収が著しい。	耐病性品種の利用、除草、適切な播種期